

2020年3月期 第1四半期決算説明会

ALTO

40th Anniversary



スズキ株式会社

2019.8.5

第1四半期実績

… 減収減益

	当第1四半期 ('19/4-6)	前第1四半期 ('18/4-6)	増 減		補足	
			増	減 増減率		
連結業績 (億円)	売上高	9,075	9,875	▲800	▲8.1%	3期振り減収
	営業利益 (利益率)	627 (6.9%)	1,165 (11.8%)	▲538	▲46.2%	8期振り減益
	経常利益 (利益率)	724 (8.0%)	1,331 (13.5%)	▲607	▲45.6%	3期振り減益
	当期純利益* (利益率)	405 (4.5%)	859 (8.7%)	▲454	▲52.8%	4期振り減益

- ・売上高減少 … 日本での検査体制再構築による減産、インドでの四輪車の販売減等
- ・営業利益減益 … 日本、インドでの売上高減少や為替影響、諸経費等増加
- ・経常利益減益 … インドでの受取利息減少等

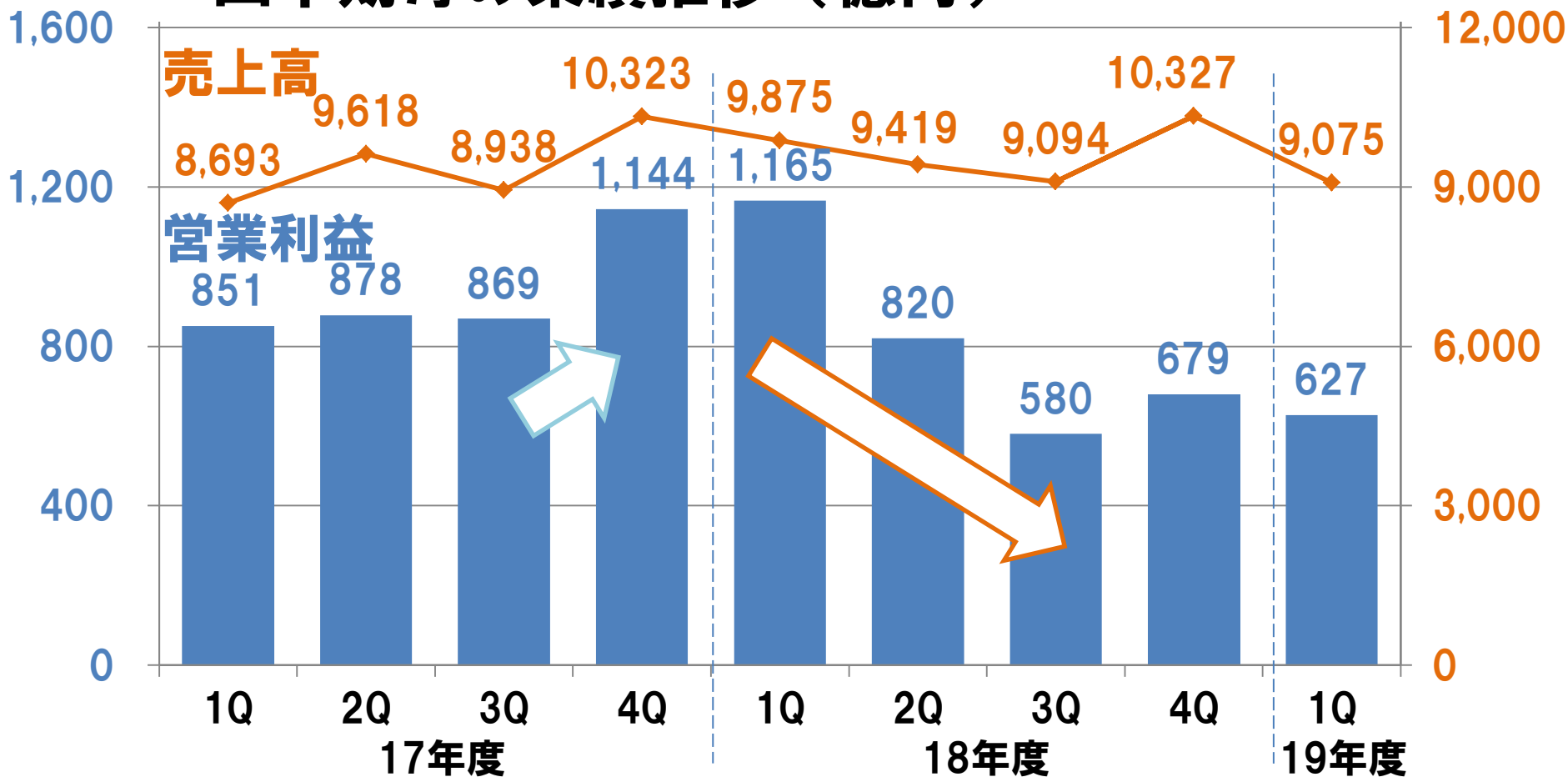
世界販売 (千台)	四輪車		二輪車		
	当第1四半期	前第1四半期	増	減	
	738	862	▲124	▲14.4%	インド、日本等で減少
	454	426	+28	+6.6%	インド、フィリピン等で増加

業績予想

… 期初予想を据置き
今後の動向も踏まえ新たな予想を発表

18年度2Q以降、インド販売減、
新興国通貨安影響等により減速

四半期毎の業績推移（億円）



アジア、特に四輪のインド売上高が大幅に減少

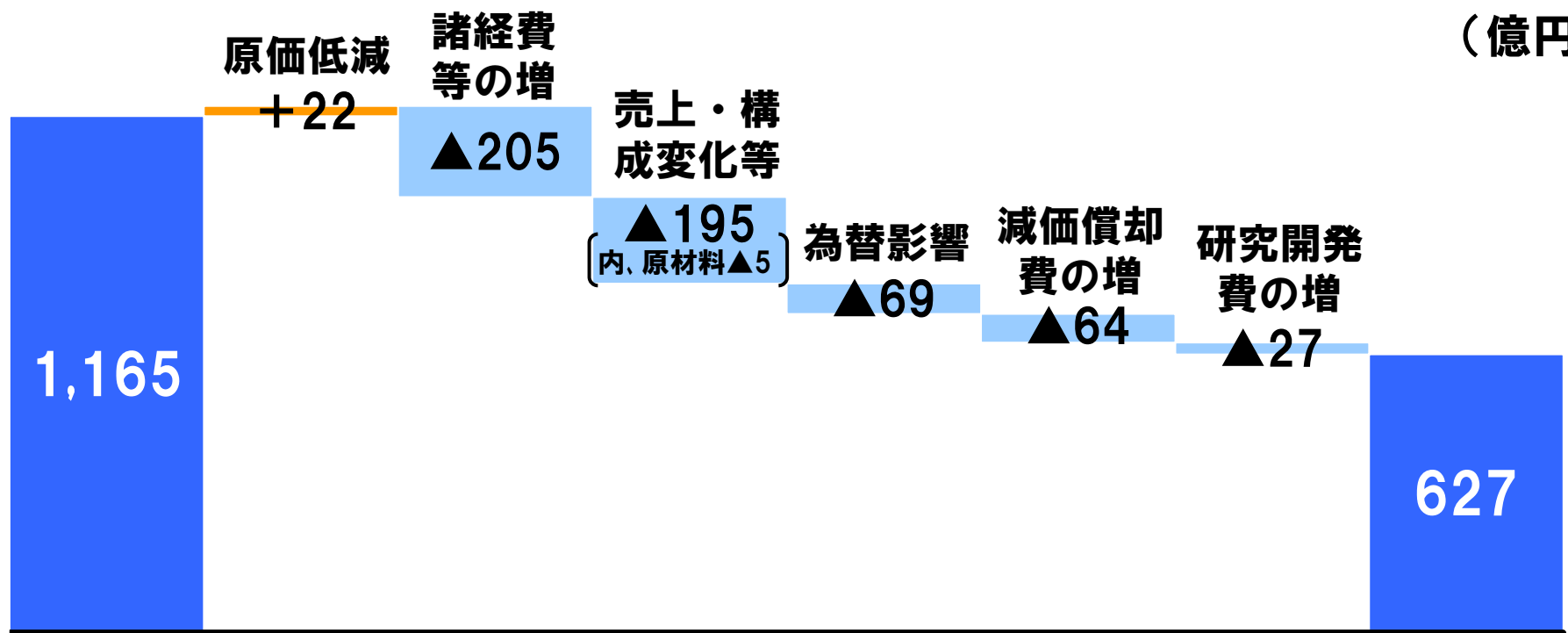
(億円)	四輪			二輪			マリン他			合計			内、為替 換算影響
	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	
国内計	2,815	2,872	▲57	57	55	+2	39	36	+3	2,911	2,963	▲52	
自 社	2,589	2,611	▲22	57	55	+2	39	36	+3	2,685	2,702	▲17	
OEM	226	261	▲35							226	261	▲35	
海外計	5,356	6,134	▲778	599	588	+11	209	190	+19	6,164	6,912	▲748	▲259
欧州	1,247	1,201	+46	119	121	▲2	63	54	+9	1,429	1,376	+53	▲74
北米	2	4	▲2	72	83	▲11	109	98	+11	183	185	▲2	+0
アジア	3,645	4,335	▲690	327	309	+18	15	17	▲2	3,987	4,661	▲674	▲162
インド	2,830	3,355	▲525	157	128	+29	1	1	▲0	2,988	3,484	▲496	▲94
"以外	815	980	▲165	170	181	▲11	14	16	▲2	999	1,177	▲178	▲68
その他	462	594	▲132	81	75	+6	22	21	+1	565	690	▲125	▲23
総合計	8,171	9,006	▲835	656	643	+13	248	226	+22	9,075	9,875	▲800	▲259
内、為替 換算影響			▲238			▲18			▲3			▲259	

注. 当期…2019年4～6月期、前期…2018年4月～6月期、北米…米国・カナダ、北米四輪車…部品用品等



連結：営業利益増減要因

(億円)



前年同期
営業利益

当第1四半期
営業利益

増益要因 +22

減益要因 ▲560

営業利益 ▲538

	当第1四半期 (’19/4-6)	前年同期 (’18/4-6)	増 減	営業利益 為替影響
米ドル	110円	109円	+1円	+1億円
ユーロ	123円	130円	▲7円	▲24億円
インドルピー	1.59円	1.64円	▲0.05円	▲15億円
インドネシアルピア (100ルピア当り)	0.77円	0.79円	▲0.02円	▲1億円
タイバーツ	3.48円	3.42円	+0.06円	▲1億円
パキスタンルピー	0.75円	0.94円	▲0.19円	▲14億円
その他	—	—	—	▲15億円 ※
計				▲69億円

※ポンド▲5億円、南アフリカランド▲4億円、オーストラリアドル▲3億円 他

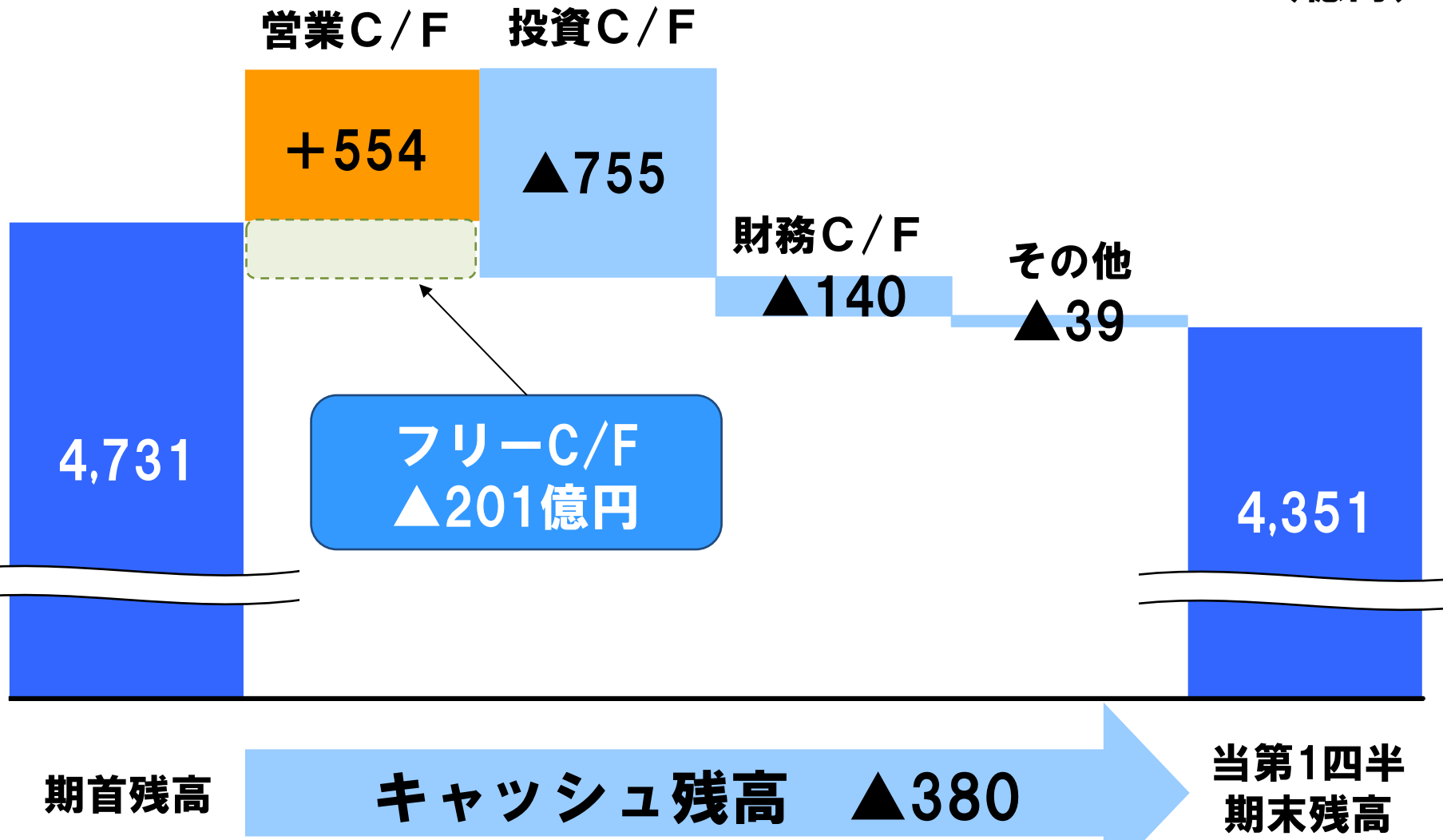
	当第1四半期 ('19/4-6)	前年同期 ('18/4-6)	増減
(当社単独)	131億円	98億円	+33億円
(子会社)	468億円	682億円	▲214億円
設備投資	599億円	780億円	▲181億円
減価償却費	391億円	327億円	+64億円
研究開発費	344億円	317億円	+27億円

	当第1四半期末 ('19/6末)	前第1四半期末		前期末	
		('18/6末)	増減	('19/3末)	増減
有利子負債残高	3,770億円	5,859億円	▲2,089億円	3,754億円	+16億円
連結子会社数	129社	131社	▲2社	130社	▲1社
持分法適用 関連会社数	28社	29社	▲1社	28社	±0社
従業員数	69,141人	67,151人	+1,990人	67,721人	+1,420人

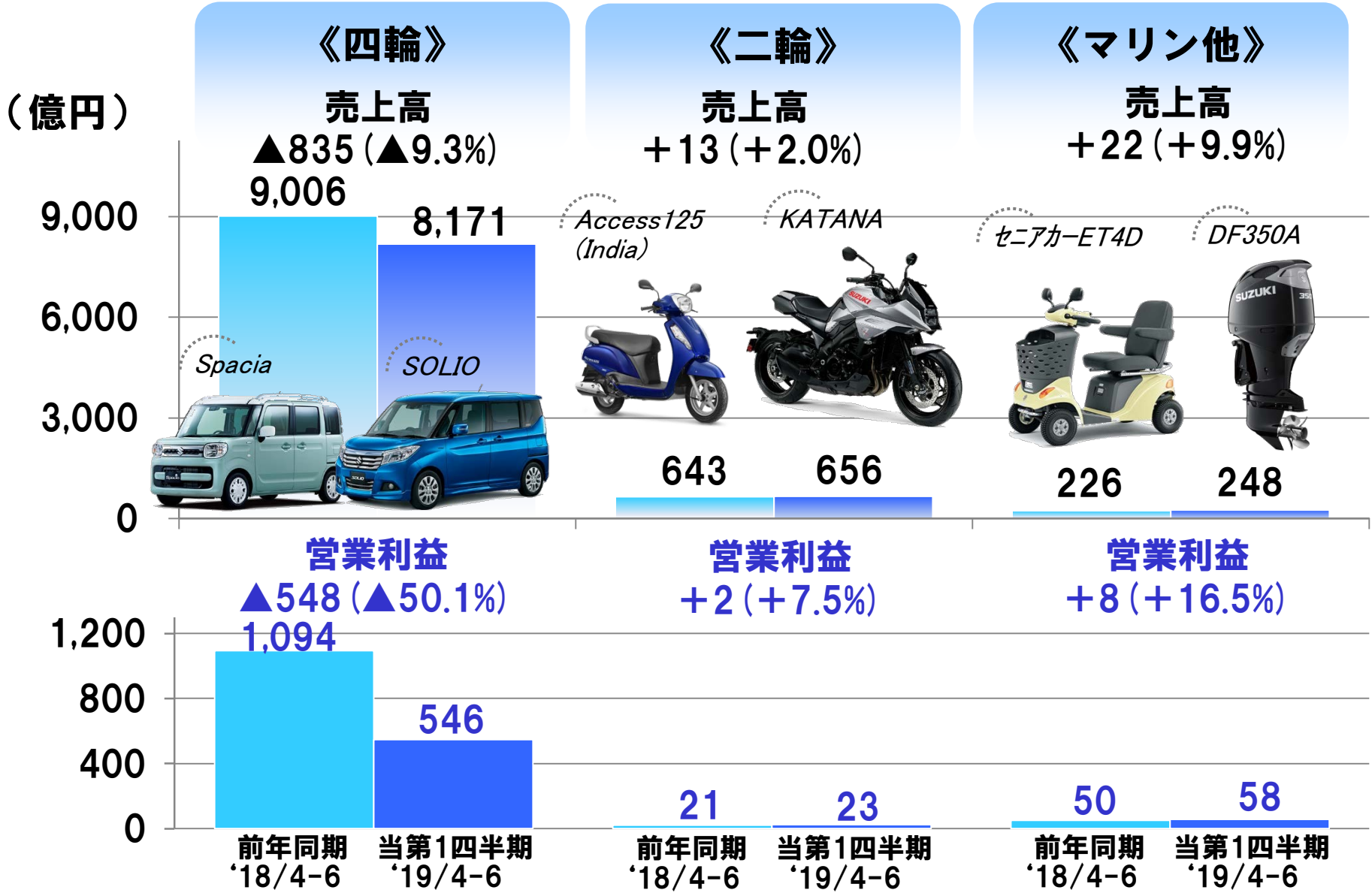


連結：キャッシュ・フロー

(億円)

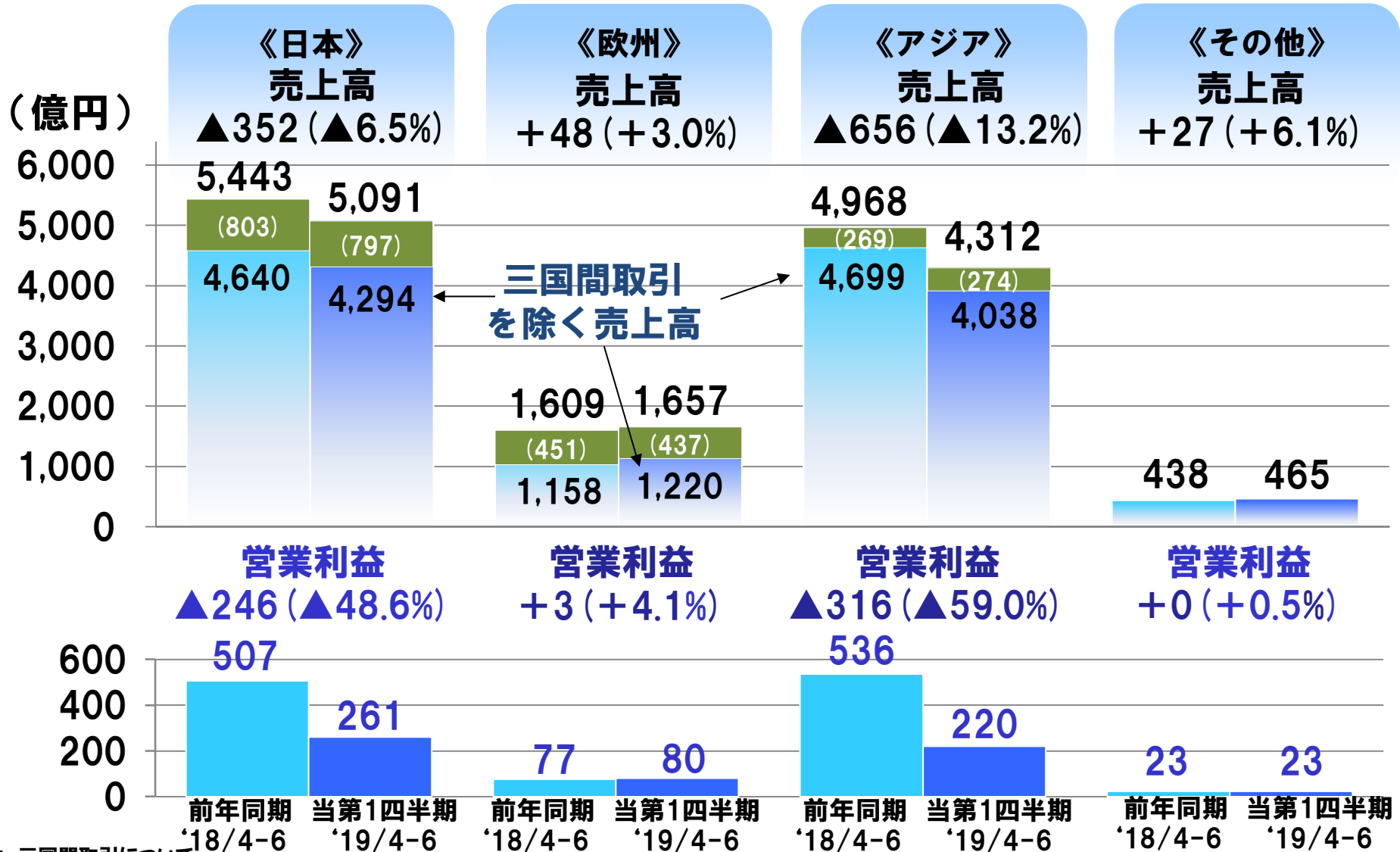


連結：事業別業績 (売上高・営業利益)





連結：所在地別業績 (売上高・営業利益)



《日本》
売上高
▲352 (▲6.5%)

《欧州》
売上高
+48 (+3.0%)

《アジア》
売上高
▲656 (▲13.2%)

《その他》
売上高
+27 (+6.1%)

三国間取引
を除く売上高

営業利益
▲246 (▲48.6%)

営業利益
+3 (+4.1%)

営業利益
▲316 (▲59.0%)

営業利益
+0 (+0.5%)

前年同期 '18/4-6

当第1四半期 '19/4-6

前年同期 '18/4-6

当第1四半期 '19/4-6

前年同期 '18/4-6

当第1四半期 '19/4-6

前年同期 '18/4-6

当第1四半期 '19/4-6

		ルピー建（億ルピー）※1			円換算額（億円）		
		当第1四半期	前第1四半期	増減	当第1四半期	前第1四半期	増減
連結業績	売上高	1,874	2,181	▲307	2,979	3,577	▲598
	営業利益※2	113	263	▲150	180	431	▲251
	（利益率）	(6.0%)	(12.1%)		(6.0%)	(12.1%)	
	税前利益	185	292	▲107	295	479	▲184
	（利益率）	(9.9%)	(13.4%)		(9.9%)	(13.4%)	
	当期純利益	138	202	▲64	219	330	▲111
	（利益率）	(7.3%)	(9.2%)		(7.3%)	(9.2%)	
	為替レート	1.59円	1.64円	▲0.05円			
卸販売	国内販売※3	374千台	464千台	▲89千台			
	輸出	28千台	27千台	+1千台			
	合計	403千台	490千台	▲87千台			

※1. ルピー建は、7月26日付でマルチ・スズキ・インディア社が発表した連結業績値

※2. 営業利益は次式により算出
 Sales of product
 + Other operating revenues
 - Total Expenses
 + Finance costs

※3. 国内販売はOEMを含む

期初予想を据置き、今後の動向も踏まえ新たな予想を発表 (億円)

	通期予想		
	当期予想	前期実績	増減
売上高	39,000	38,715	+285
営業利益 (利益率)	3,300 (8.5%)	3,244 (8.4%)	+56
経常利益 (利益率)	3,400 (8.7%)	3,795 (9.8%)	▲395
当期純利益※ (利益率)	2,000 (5.1%)	1,788 (4.6%)	+212

	通期予想		
	当期予想	前期実績	増減
設備投資	2,700	2,689	+11
減価償却費	1,600	1,489	+111
研究開発費	1,700	1,581	+119

※親会社株主に帰属する当期純利益

《営業利益 増減要因》

増減要因	
原価低減	+310
売上・構成変化等	+126
為替影響	▲150
研究開発費の増	▲120
減価償却費の増	▲110
合計	+56

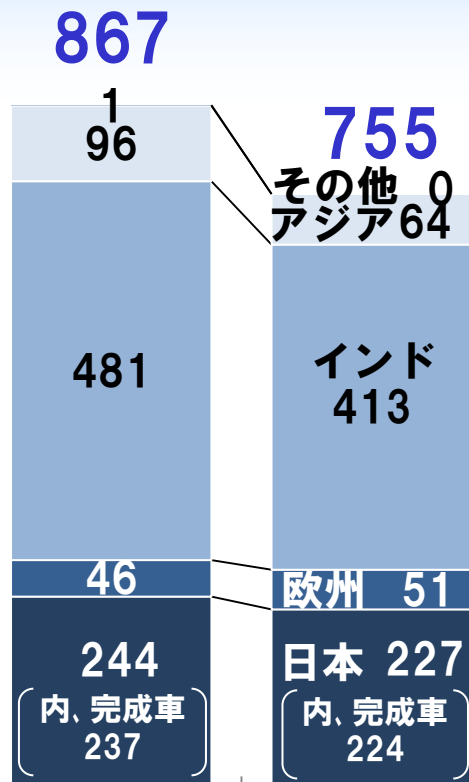
《為替レート・為替影響》

	通期予想			営業利益 為替影響
	当期予想	前期実績	増減	
米ドル	110円	111円	▲1円	▲7
ユーロ	125円	128円	▲3円	▲47
インドルピー	1.58円	1.60円	▲0.02円	▲26
インドネシア※	0.77円	0.78円	▲0.01円	▲4
タイバーツ	3.40円	3.43円	▲0.03円	▲0
※インドネシアは 100ルピア当り	その他通貨			▲66
	為替影響額 計			▲150

生産、販売ともインド、日本の減により前年割れ

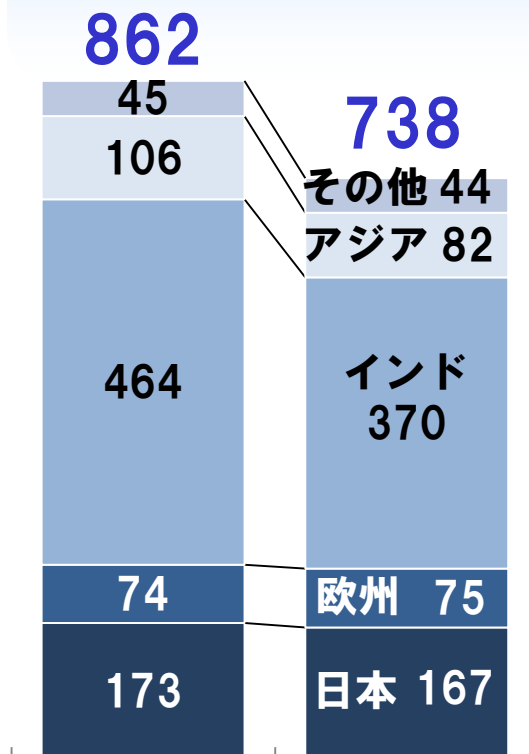
《生産実績》

▲112千台 (▲13.0%)



《販売実績》

▲124千台 (▲14.4%)
(千台)



●当期(4~6月)の世界販売

・738千台 (前年同期比▲14.4%)

・インド370千台 (同▲20.2%)
日本 167千台 (同▲3.8%)
欧州 75千台 (同+0.6%)

・インドを除くアジアは
82千台 (同▲22.1%)

(内訳)

パキスタン 31千台 (同▲17.4%)
インドネシア 25千台 (同▲13.5%)
タイ 6千台 (同▲15.0%)
フィリピン 6千台 (同+32.3%)
中国 6千台 (同▲67.3%)
その他 9千台 (同▲13.8%)

前年同期
'18/4-6

当第1四半期
'19/4-6

前年同期
'18/4-6

当第1四半期
'19/4-6

日本の軽自動車規格と同じボディーと排気量を採用

●新型「アルト」について

- ・パキスタンのパックスズキモーター社は、新型「アルト」を6月15日より販売開始
- ・日本で販売している軽自動車「アルト」と同じ全長・全幅のボディーに、優れた燃費性能と力強い走りを両立する660ccのR06A型エンジンを搭載

●日本の軽自動車をベースにした生産について

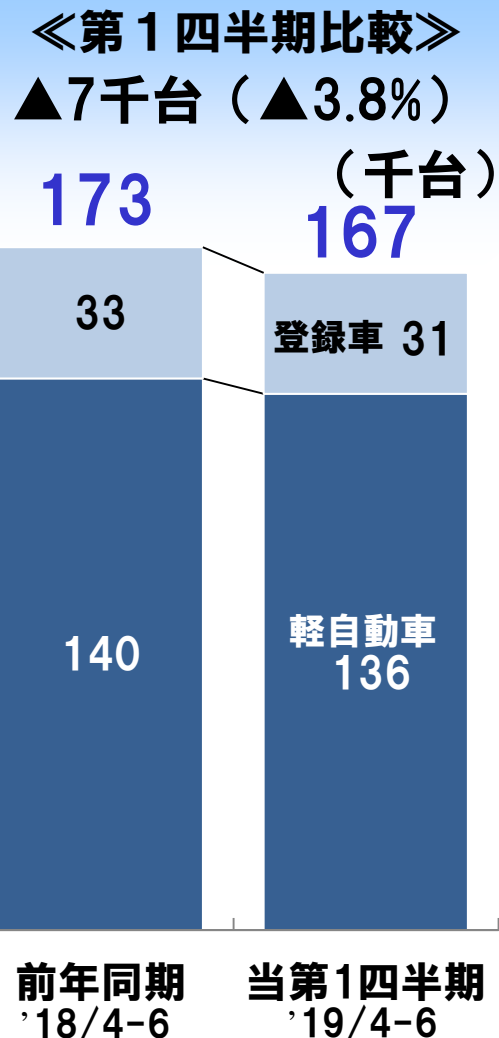
- ・パックスズキモーター社は1982年の生産開始以来、日本の軽自動車をベースに800～1,000ccのエンジンを搭載したモデルを中心に生産
- ・スズキの海外拠点で、現在の日本の軽自動車規格と同じボディーと排気量を採用したモデルを生産するのは、今回が初めて
- ・経済性、信頼性が高く、高性能な軽自動車を、日本のみならずグローバルに展開
- ・スズキが強みとするコンパクトカーの更なる普及を図っていく

●新型「アルト」の主要諸元

- ・全長×全幅×全高 : 3,395mm × 1,475mm × 1,490mm
- ・エンジン : R06A型 (660cc)
- ・トランスミッション : 5MT/AGS
- ・価格 : 999～1,295千ルピー (約779～1,010千円※)
※0.78円/ルピーで換算



検査体制再構築による減産の影響により前年割れ



●当期（4～6月）の国内販売

- 検査体制再構築による減産の影響により、
軽自動車は前年同期比▲2.8%
登録車は " ▲7.9%

●トピックス

- 「アルト」1979年5月の発売から40周年
- 安全装備の充実を中心とした一部仕様変更を実施、サポカーS該当車、AEB S認定車を拡充

ALTO
40th Anniversary



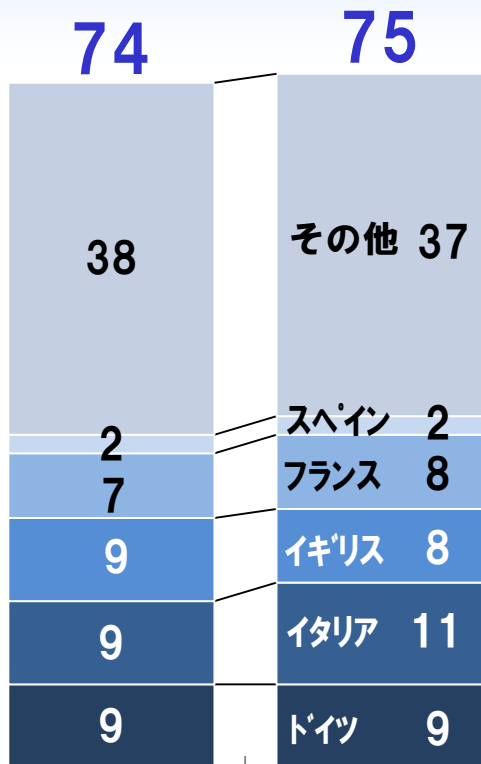
L a p i n



EVERY
WAGON

欧州全体では前年同期並み

《第1四半期比較》
+0千台 (+0.6%)



《モデル別内訳》
(千台)



●当期 (4~6月) の欧州販売

- ・イタリア、フランスが前年同期を上回る
- ・欧州全体では前年同期並み



前年同期
'18/4-6

当第1四半期
'19/4-6

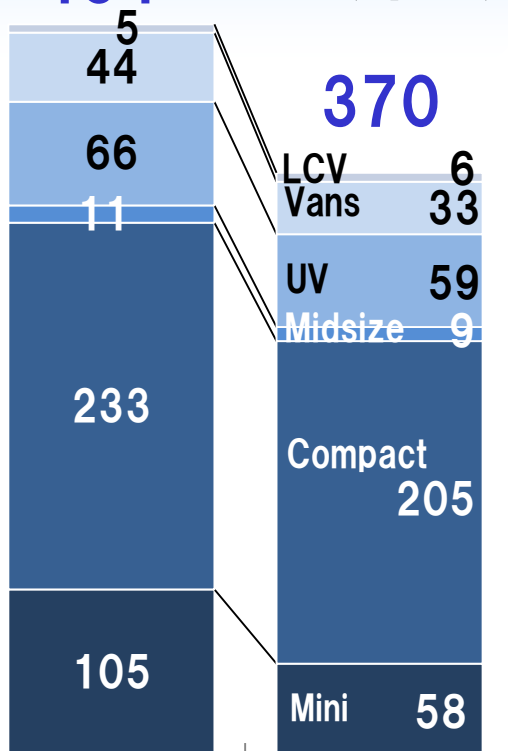
前年同期
'18/4-6

当第1四半期
'19/4-6

インド国会議員選挙前の買い控え影響もあり前年割れ

《第1四半期比較》

▲94千台（▲20.2%）
464（千台）



●当期（4～6月）のインド販売

- 4～5月にかけて実施されたインド国会議員選挙前の買い控え影響もあり、前年同期比▲20.2%と低迷

●トピックス

- 6月、職業訓練校「マルチ・スズキJIM（ウンチャ マジラ、グルグラム）」が、経済産業省より「日本式ものづくり学校」として2校目の認定
- 6月、NEXA移動ショールームを開設
NEXA体験を全国のお客様に広く知って頂く新たな試み



前年同期
'18/4-6

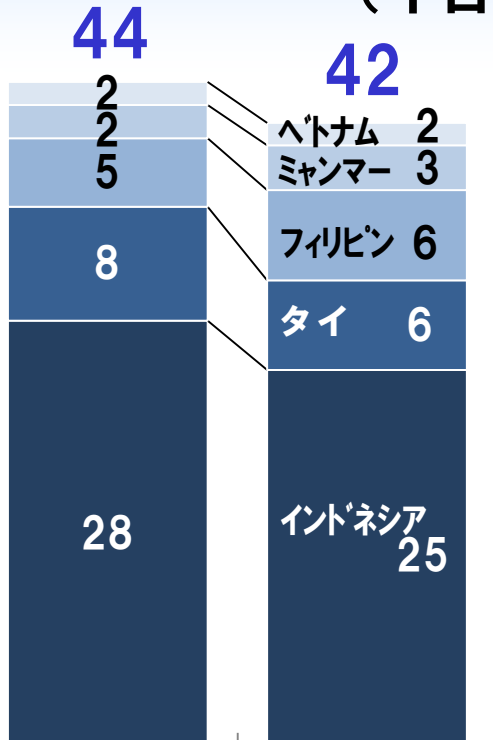
当第1四半期
'19/4-6

※LCV=Light Commercial Vehicles, UV=Utilities Vehicles

インドネシア、タイの販売減により減少

《第1四半期比較》

▲3千台（▲5.9%）
（千台）



●当期（4～6月）のアセアン販売

- ・インドネシアは2018年11月以降の市場縮小もあり、前年同期比▲13.5%と低迷
3月に追加したエルティガのスポーツ仕様や、4月に販売開始した新型キャリイ等を拡販していく



- ・タイはスイフト、エルティガが堅調なものの、シアズの落ち込みにより、前年同期比▲15.0%
- ・フィリピンはスイフト、ディザリア、エルティガの好調により前年同期比+32.3%
- ・ミャンマーは全体市場拡大により前年同期比+17.9%

前年同期 '18/4-6 当第1四半期 '19/4-6

※アセアン…インドネシア、タイ、フィリピン、ミャンマー、ベトナム 5ヶ国合計

アジアの増加により生産・販売ともに増加

《生産実績》

+4千台 (+1.0%)

424

429

12

その他 17

376

アジア
392

1

36

北米
日本

1

19

前年同期

'18/4-6

当第1四半期

'19/4-6

《販売実績》

+28千台 (+6.6%)

426

454

43

その他 43

(千台)

336

アジア
370

12

16

19

北米
欧州
日本

12

15

14

前年同期

'18/4-6

当第1四半期

'19/4-6

●当期（4～6月）の二輪車

- ・インド、フィリピンなどの増により、生産、販売ともに前年を上回る

《アジアの内訳》

+34千台 (+10.0%)

336

370

36

19

45

138

99

その他 39

インドネシア 18

フィリピン 52

インド 174

中国 87

前年同期

'18/4-6

当第1四半期

'19/4-6

期初予想を据置き、今後の動向も踏まえ新たな予想を発表

(千台)	生産台数			
	当期予想 (19年度)	前期実績		
		(18年度)	増減	増減率
<四輪車>				
日本	1,009	1,011	▲2	▲0.2%
欧州	174	180	▲6	▲3.4%
アジア	2,272	2,201	+71	+3.2%
その他	2	2	▲0	▲7.4%
合計	3,457	3,394	+63	+1.9%

<二輪車>				
日本	111	115	▲4	▲3.4%
欧州	-	-	-	-
北米	3	4	▲1	▲25.5%
アジア	1,680	1,576	+104	+6.6%
その他	52	52	▲0	▲0.6%
合計	1,846	1,747	+99	+5.6%

(千台)	販売台数			
	当期予想 (19年度)	前期実績		
		(18年度)	増減	増減率
日本	720	725	▲5	▲0.7%
欧州	256	278	▲22	▲8.0%
アジア	2,182	2,138	+44	+2.1%
その他	182	186	▲4	▲2.3%
合計	3,340	3,327	+13	+0.4%

インド四輪の販売見通しは前年比+4%

日本	60	57	+3	+6.1%
欧州	47	44	+3	+7.6%
北米	39	36	+3	+7.8%
アジア	1,536	1,436	+100	+7.0%
その他	143	171	▲28	▲16.5%
合計	1,825	1,744	+81	+4.7%

● ESG（環境、社会、ガバナンス）投資のための世界的な株価指数

- 本年7月、「FTSE4Good Index Series」並びに「FTSE Blossom Japan Index」の構成銘柄に初めて選定

● 「FTSE4Good Index Series」について

- ロンドン証券取引所100%出資のFTSE Russell社が開発した、ESGの観点から優れていると判断された企業の株式で構成された株価指数
- ESGに着目した投資ファンドや金融商品の作成、評価に広く利用

● 「FTSE Blossom Japan Index」について

- 日本企業に特化した同社のESG投資の株価指数
- 世界最大規模の年金運用機関である年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）がESG投資の運用にあたり採用

- 今後ともESGの取り組みに関する情報を分かりやすく開示することを心がけ、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを促進し、持続的な企業価値の向上を着実に進めてまいります。

2020年3月期 第1四半期決算説明会



スズキ株式会社

将来予想に関する注意事項

- ※このプレゼンテーション資料に記載した将来予想は、現時点で入手可能な情報及び仮定に基づき当社が判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。
- ※実際には、様々な要因の変化により大きく異なることがありますことをご承知おき下さい。
- ※実際の業績に影響を及ぼす可能性がある要因には、主要市場における経済情勢及び需要の動向、為替相場の変動(主に米ドル／円相場、ユーロ／円相場、インドルピー／円相場)などが含まれます。